

令和7年度事業計画

県内の景気や個人消費は緩やかに回復していると言われるものの、人手不足や物価上昇が続いており、福岡市内では多目的ホールを備えた文化施設や天神地区の新オフィスビルといった競合施設の相次ぐ開業による貸館事業の競争激化など、財団を取り巻く環境は厳しさが続いている。

こうした中、令和7年度はアクロス福岡開館30周年の締めくくりの年となる。当財団の使命である県民の心豊かな生活と活力ある地域社会の実現を目指し、第5次中期経営計画に基づき、これまでの感謝を込めたバースデーコンサートをはじめ、質の高い文化を県民に提供するとともに、あらゆる人が等しく文化を享受できる環境整備に努めていく。

また、令和7年度は、第4期指定管理期間（令和3年度～令和7年度）及び第5次中期経営計画の最終年度となることから、今後、財団が取り組むべき方向性や果たすべき役割を見据え、令和8年度からの指定管理受託に向けた準備を進めるとともに、次期中期経営計画を策定し、将来への種まきを進めていく。

I 文化振興事業

音楽・舞台芸術を中心とした文化芸術の振興を図るため、「グローバルな感動体験」、「演奏家・聴衆・事業運営者など事業を支える人の育成」及び「あらゆる人が文化芸術に触れる機会の創出」の3つの事業理念を掲げ、バランスのとれた事業展開を行う。

令和7年度はアクロス福岡開館30周年記念事業の集大成として、無料招待公演「アクロス・バースデーコンサート」を実施するほか、引き続き質の高い音楽・舞台芸術を鑑賞する機会を提供する。また、あらゆる人が等しく文化を享受できる機会を創出する社会包摂事業や若い世代を対象とした育成事業の取組を強化する。

総事業数は、主催・共催により76事業を予定しており、コロナ禍前の令和元年度実績77事業とほぼ同規模を見込んでいる。

《 3つの理念に基づく事業展開 》計76事業

○ グローバルな感動体験

（質の高い音楽・舞台芸術の鑑賞機会の提供）

「バーミンガム市交響楽団」、「第19回ショパン国際ピアノ・コンクール入賞者ガラコンサート」、「NHK交響楽団」などのオーケストラ公演

のほか、現代最高のチェリスト「ヨーヨー・マ チェロリサイタル」など27事業を主催・共催する。

- 演奏家・聴衆・事業運営者など事業を支える人の育成
(次世代を担う若い音楽家とそれを支える人の育成と環境整備)
学校キャラバン事業、舞台芸術感動体験事業、アクロス国際音楽セミナー、福岡ジュニアオーケストラ、ランチタイムコンサートなど28事業を主催・共催する。
- あらゆる人が文化芸術に触れる機会の創出
(あらゆる人が等しく文化を享受できる場として機能するため、多様な分野と協働・連携した事業を展開)
アクロス・バースデーコンサート、アクロス・クラシックふえすた、新・福岡古楽音楽祭、「劇場って楽しい!!」、「声明とカウンターテナーによる祈りの音楽」など21事業を主催・共催する。

1 クラシック音楽の裾野を広げるための取組

(1) アクロス・バースデーコンサート【新規】

開館30周年の感謝を込めて、シンフォニーホールの監修者であり、ベルリン・フィル元コンサートマスターの安永徹氏等が九州交響楽団と共演する豪華コンサートに1,800名を無料招待する。

また、コンサートに先立ち「福岡シンフォニーホール・オープンステージ」を開催し、300名を無料招待する。シンフォニーホールのステージを解放し、バックヤードやステージを自由に見学できるほか、写真撮影やミニコンサートなども実施し、世界一流の演奏家が立った舞台を体験できるイベントを実施する。

(2) アクロス・クラシックふえすた

クラシック音楽に気軽に親しみ、一日中家族連れで楽しめるよう、館内のホールを会場に有料・無料のコンサートや音楽に関する多様なイベントを開催する。バックステージツアーやヴァイオリン体験などの参加型企画や企業と連携した楽器の展示・試奏コーナーを設置し、音楽を身近に感じる空間づくりを目指す。

(3) アウトリーチ事業の充実

県内の文化施設や美術館等と協働で実施する「ミュージック・キャラバン」や、ヴァイオリンやピアノのプロの演奏家を小学校へ派遣し、楽器演奏体験をメインとした出前授業「学校キャラバン」など、県内の様々な地域でアウトリーチ事業を実施する。

2 青少年等を対象とした育成事業

(1) アクロス国際音楽セミナー

国際コンクール等を目指す若者を対象としたセミナーを実施する。

(2) ヴァイオリンセミナー

講師に景山誠治氏を迎え、プロの音楽家を目指す若者を対象としたセミナーを実施する。あわせて、成果発表を兼ねたスプリングコンサートを開催する。

(3) 福岡ジュニアオーケストラ

子どもたちのオーケストラ活動を支援する。引き続き、初心者対象の「福岡ジュニアオーケストラアカデミー」を実施し、子どもたちが参加しやすい環境を整備する。

3 舞台芸術を支える人材の育成

県内公立文化施設の職員等を対象とした文化芸術事業に関する意識と企画力・実践力を高めるための研修「文化芸術イノベーションアカデミー」を令和6年度に引き続き実施し、専門的人材の育成を推進する。

4 音楽を通じた社会包摂への取組

(1) 学校キャラバン特別授業

特別支援学校を対象とした音楽の出前授業。プロのパーカッション奏者やダンサーを派遣し、参加型の特別授業を実施する。

(2) 劇場って楽しい！！

知的・発達障がい児を対象とした劇場体験プログラム。県内外のホールと協働で社会包摂事業の企画準備等の研修（九州ネットワーク会議）を実施するなど、アクロスの持つ知見や運営ノウハウを共有。

5 各種団体との連携強化

地元のオーケストラ九州交響楽団との事業連携のほか、公演事業に対する地域企業・団体の協賛獲得など地域サポート体制の一層の強化に努める。

また県内、九州管内、全国の類似ホールと情報共有を緊密に行い、事業運営に活かす。

II 情報提供事業

伝統工芸の振興に取り組む地域・伝統文化活動団体に対して発表の場を提供し、活動の支援と交流の促進を図るとともに、県民が文化芸術を鑑賞し体験する機会を創出する。

また、文化芸術団体、文化施設、まちづくり団体及び観光分野等地域との連携による伝統工芸や地域文化、県内各地域の魅力の発信を通じ、にぎわいづくりと地域振興に努める。

さらには、障がいのある人に対し、文化芸術の鑑賞や創造の機会、作品等を発表する場を提供し、活動を支援する。

1 伝統工芸品の普及と地域文化・生活文化の推進

(1) 匠ギャラリーの活性化

- ・国、県指定工芸品の常設展示のほか、歴史や作業工程を紹介するテーマ展示や工芸作家による企画展等を開催する。また、1階ではカフェやショップを運営する。
- ・小学生から大人までが障がいの有無に関わらず、伝統工芸品そのものや素材、道具などに直接触れることのできる体感型事業を実施する。
- ・福岡県と連携して伝統的工芸品の企画展を開催する。

(2) インバウンドを見据えた伝統工芸品と地域文化・生活文化の魅力発信

- ・近隣宿泊施設や観光案内所等へ外国語パンフレットを配架・設置する。また、新たにクルーズ船寄港旅行者に対し匠ギャラリーのチラシを配布する。
- ・匠ギャラリー内の一部ショップにおいて、外国人観光客等が一定額以上の商品を購入する際、消費税を免除する免税対応を実施する。

(3) 次世代への継承

- ・小中学校等の社会科見学を受け入れ、伝統的工芸品常設展示の説明や制作体験を行う。
 - ・夏休みに伝統工芸品の職人による子ども向け手作り体験を実施する。
 - ・小学生から大人までが障がいの有無に関わらず伝統工芸品そのものや素材、道具などに直接触れることのできる体感型事業を実施する。
- (再掲)
- ・お正月に地域に根付く日本の伝統文化の体験や鑑賞の場を創出する。

2 文化・情報の交流拠点づくり

(1) 多様な主体と連携した情報の発信

- ・イベント情報発信サイト「アクロスおでかけナビ」を運営する。
- ・県内の自治体と協働し、地域の文化や観光資源等を紹介する。

(2) あらゆる人が文化を享受できる環境整備

- ・障がいのある人の文化芸術活動を支援するため、九州障害者アートサポートセンターと協働し、公募展やステージパフォーマンス等を開催

する。

- ・さまざまな理由で文化芸術に触れる機会の少ない子どもたちが、それらに触れ楽しむことができる機会を創出する。
- ・メッセージホワイエ等を活用し、文化活動者に作品発表の場を提供する。
- ・県内の学校（特別支援学校を含む）や部活動が行う文化芸術活動を支援するため、交流ギャラリーを発表の場として提供するとともに、会場使用料等の助成を行う。【新規】

3 にぎわいづくりと地域振興・観光振興

(1) 文化と伝統を生かしたにぎわいのまちづくり

- ・地域に根付く伝統文化や生活文化等の鑑賞や体験、学びの場を創出する。(再掲)

(2) 観光案内所の魅力向上

- ・県内外の自治体や民間企業等が観光資源を活用して実施するイベント情報を収集し、「アクロスおでかけナビ」で提供する。

4 広報活動の推進

(1) 効果的な広報の実施

- ・アクロス福岡のイベント情報・チケット発売情報等をタイムリーに届けるため、WEBメンバーズ向けメールマガジンを月2～3回程度配信するとともに、公式SNS（Facebook、X、Instagram）やホームページを活用し、公演の見どころを動画等できめ細かに発信する等、集客につながる広報を展開する。
- ・マスコミへの個別プロモーションやマスコミキャラバン等を実施し、マスコミとの関係を強化することで、継続的な掲載獲得につなげる。
- ・プレスリリースについては、イベント毎のターゲットを明確化し、マスコミ媒体を選別した戦略的なWEB配信を実施する。

(2) ホームページ特設サイト「アクロスラボ」の立ち上げ【新規】

文化芸術を通じた社会包摂事業や次代を担う人の育成事業等、社会的価値の高い取組を紹介する「アクロスラボ」をホームページ上に新たに開設し、県内外に広く発信する。

(3) 広聴機能の充実

施設利用者や主催事業のアンケートのほか、ホームページや電話等を通じて寄せられる県民や利用者の意見を的確に把握した上で、改善に努め、利用者の満足度の向上及び新たな顧客確保につなげる。

Ⅲ 施設サービス（貸館）事業

国際会議、国内学会及び全国大会等の開催を目的とした空室状況の問合せや見積り依頼はコロナ禍前の状況に戻ってきているため、積極的な営業誘致活動を図る。

また、年々稼働率が低下傾向にある一部施設については、施設の特性を活かした提案等を行い、利用促進に取り組む。

日常的な防火・防災訓練の実施等による防災管理体制の継続的な充実を図るとともに、引き続き福岡県と密な連携を図り、「個別施設計画」に基づく施設の維持・保全に努める。

1 積極的な営業誘致

コロナ禍前の状況に戻りつつある、国際会議・医学会／工学会／情報学会・全国大会等のイベント誘致を積極的に行う。

また、過去の実績等を検証した上で、需要が想定される利用者を対象にした催事誘致を行う。

- (1) 福岡観光コンベンションビューローとの連携による大学や学会事務局への訪問を強化し、使用方法や見積りを積極的に提案する。
- (2) 周辺類似施設との情報交換による営業情報収集と、会議専門運営機関（PCO）との連携強化による優良顧客の誘致を強化する。
- (3) 過去の利用実績や他会場での実績（表彰式、入学式、卒業式、検定試験、入学試験、株主総会、会社説明会等）を踏まえ、福岡シンフォニーホール、国際会議場及び会議室の利用が想定される新規顧客、既存顧客に対し、催事誘致を行う。
- (4) 利用を検討している顧客に実際の利用イメージが具体的に伝わるよう、施設の広さやレイアウト、必要な機材・備品が一目で理解できるような写真を掲載するなど、パンフレットやホームページ等の見直しを図る。【新規】

2 利用者サービスの充実強化・利用しやすさの向上

施設利用者及び来場者の満足度を一層高めるために、質の高いサービスや設備向上に努める。

- (1) イベントホールの一般照明のLED化及び音響設備更新を行う。
- (2) 顧客ニーズの高い設備の更新等を検討する。
 - ・映像機器の更新（イベントホール、大会議室）
 - ・トイレ洋式化及び温水便座化（イベントホール）

・ Free Wi-Fi 新規追加工事

3 施設機能の充実

施設の維持管理・補修についてビル管理会社と連携を図りながら、より安全で快適な空間の提供に取り組む。

併せて、「安全の確保、トラブルの防止」を基本とした保守点検の遵守、日常的な防災意識・防災体制の充実強化に向けた取組を行う。

- (1) アクロス福岡共同防火・防災管理協議会主催の防災訓練への積極的参加
- (2) 防火・防災について、より具体的な事態を想定した財団独自の研修実施
- (3) 福岡県警の協力を得た防犯研修・防犯訓練の実施
- (4) 「個別施設計画」に基づく施設の維持・保全

IV 組織・運営

公益財団法人として適切な財団運営に取り組むとともに、福岡県文化芸術振興条例の目的の実現に向け組織体制の充実を図る。また、収益力の強化を図り、安定した財政基盤を整える。

1 組織力の充実強化

福岡県文化芸術振興条例に沿った事業を、限られた人数で効果的・効率的に実施するために、組織の枠にとらわれず議論・検討を行い、財団全体で事業に取り組んでいく。

また、外部アドバイザーの助言を受けながら、PDCA サイクルによる運営方針の的確性・透明性の確保を図る。

2 財政基盤の強化

事務改善による効率化、事業経費節減の管理徹底により財政基盤の強化を図るとともに、中長期的視野に立った効果的・効率的な広報・セールスを展開することで貸館事業、文化振興事業等における営業の強化を図り、収益力を高め、安定した財政基盤を整える。

3 人材育成の推進

中長期的な人材育成を見据えた研修を実施し、職務能力の向上及びコンプライアンス遵守を図るとともに、人事評価制度の活用による職員の士気の高揚を図る。

また、職員の社会包摂への理解を一層深め、あらゆる人が等しく文化を享

受できるための事業に活かしていく。

4 次期指定管理の受託等に向けた取組

令和8年度からのアクロス福岡指定管理の受託に向け、これまでの成果を振り返り、強みや環境の変化等を再認識し、よりよい提案に繋がるよう組織一丸となって取り組む。